

自転車走行環境の改善に向けて

試行内容 ①案内看板

- モデルルート of 起点から終点方向に、ルートが右左折で分岐する交差点にある既設の道路付属物（道路標識、道路照明、固定式視線誘導等）の支柱にルート案内シールを貼り付け、進行方向を案内。
- 道路付属物が無い石狩川流域圏ルートの河川敷では、路面にシールを貼り付け、進行方向を案内。

▼地域協働で実施した案内シールの貼り付け状況



きた北海道ルート



トカプチ400



現地の状況

▼分岐箇所・案内シール設置枚数（道路）

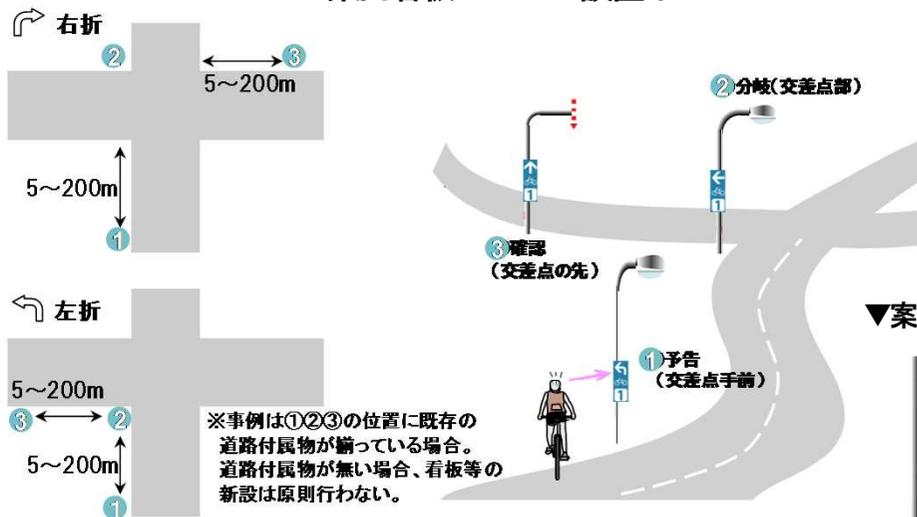
ルート番号	試行ルート名	分岐箇所	設置必要枚数	設置枚数
1	きた北海道ルート	89	267	184
2	石狩川流域圏ルート	131	393	308
3	阿寒・摩周・釧路湿原ルート	26	78	54
4	トカプチ400	69	207	137
5	富良野・占冠ルート	24	24	
合計		315	945	683

※分岐箇所1箇所につき、予告・分岐・確認の3枚が必要
 ※富良野・占冠ルートは、右に示す路面表示を交差点に設置することで 地域独自の案内誘導を実施。（合計には含めていない）

（富良野市の例）



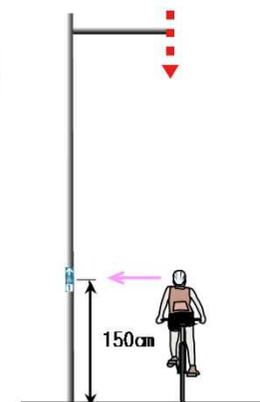
▼案内看板シールの設置イメージ



※事例は①②③の位置に既存の道路付属物が揃っている場合。道路付属物が無い場合、看板等の新設は原則行わない。

既存の道路付属物支柱の、地上150cm程度の高さ(サイクリストの目線)に「ルート案内シール」(①予告、②分岐、③確認)を貼り付け、適切にルートへ誘導する。①予告、③確認は、交差点から概ね200m以内に設置する。

▼案内看板の設置高さ



▼分岐箇所・案内シール設置枚数（河川敷）

ルート番号	試行ルート名	分岐箇所	設置枚数
2	石狩川流域圏ルート	47	201
合計		47	201

※分岐箇所1箇所につき、予告・分岐・確認の3枚を設置したほか、堤防と高水敷の昇降箇所に60枚設置

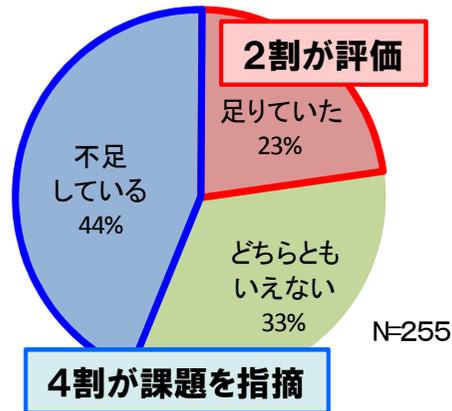


現地の状況

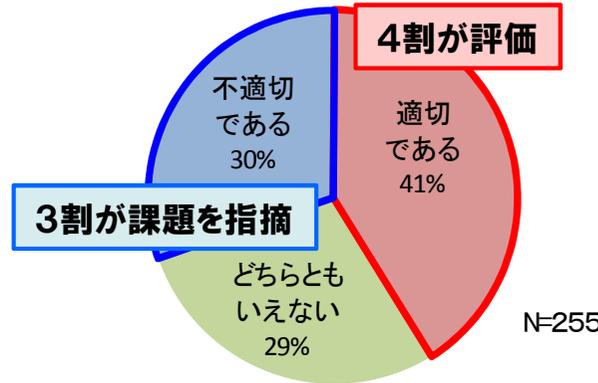
利用者のアンケート調査結果 ①案内看板

- 案内看板シールの全体的な数(交差点直進、単路部を含む)が不十分であること、案内看板シールが小さいことにより、案内としてわかりにくいことが課題。
- その他の意見では、直線部への案内及びモデルルート^①の終点から起点方向への案内を望む意見がある。

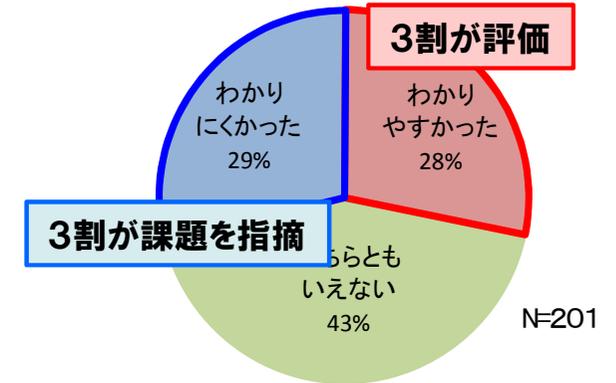
(設問1-1)ルート全体として、案内看板シールの設置箇所数は足りていましたか？



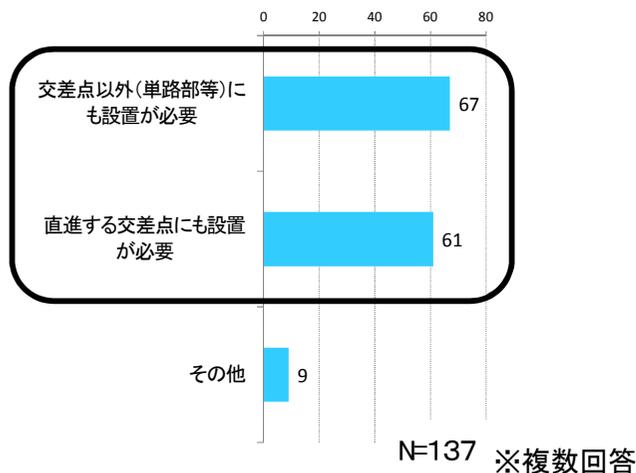
(設問1-2)案内看板シールの大きさはどう思いますか？



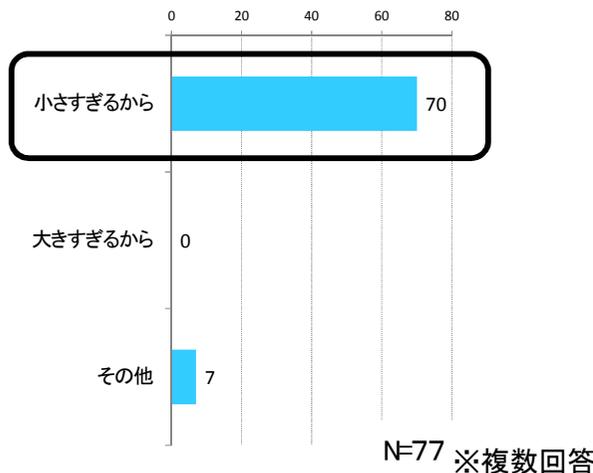
(設問1-3)案内看板シールはサイクリングルート^②の案内としてわかりやすかったですか？



▼「不足している」と回答した理由



▼「不適切である」と回答した理由



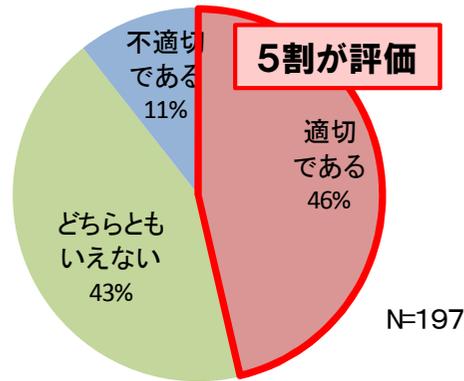
▼その他の意見 アンケートの自由回答意見より

- ・看板を多くしてほしい。直線部にもシールがあると良い。
- ・ルートを間違えたのかと心配になるため、一定程度の間隔で案内看板シールを設置してほしい。
- ・終点から起点方向の案内看板シールの設置もお願いしたい。

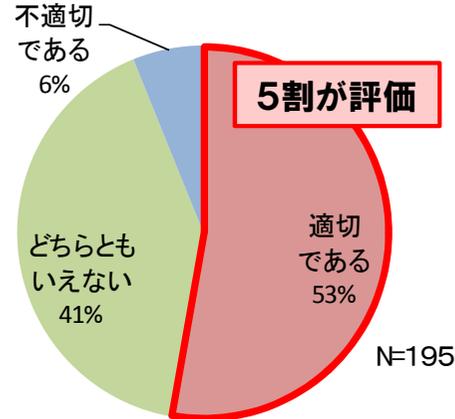
利用者のアンケート調査結果 ①案内看板

○案内看板シールの設置距離、設置高さ、表示内容の評価は高い。

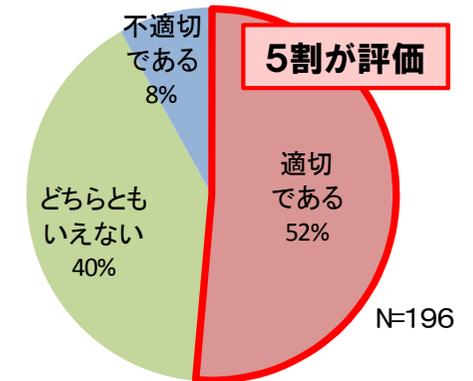
(設問1-4)交差点部から
「①予告案内看板シール」の
設置距離についてどう思いますか？



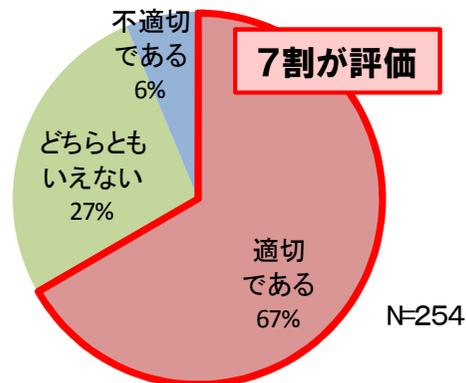
(設問1-5)交差点部から
「②分岐案内看板シール」の
設置距離についてどう思いますか？



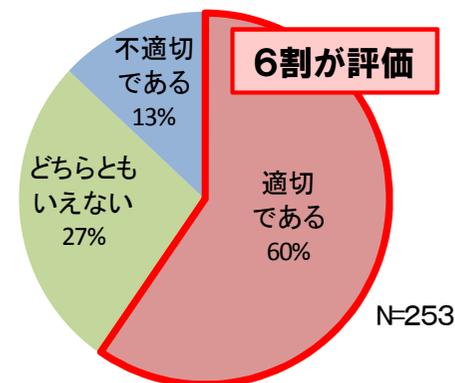
(設問1-6)交差点部から
「③確認案内看板シール」の
設置距離についてどう思いますか？



(設問1-7)案内看板シールの
設置高さ(地上から150cm)は
どう思いますか？



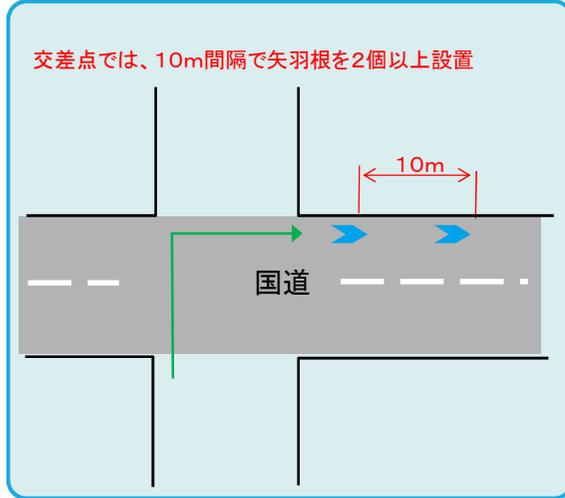
(設問1-8)案内看板シールの
表示内容(進行方向・自転車マーク・ルート番号)
はどう思いますか？



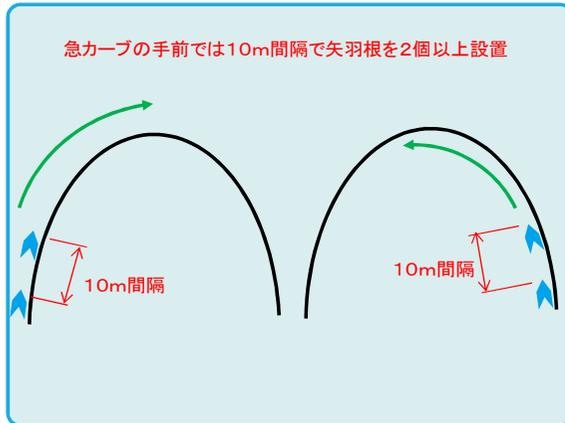
試行内容 ②路面表示(矢羽根)

○路面表示(矢羽根)は、車道における自転車通行位置を自転車利用者とドライバーの双方に示し、「安全」な道路交通環境を確保するため、モデルルート上の国道×道道以上の交差点に15箇所、国道の急カーブの手前に29箇所設置。

▼「交差点」の設置間隔のイメージ



▼「急カーブの手前」の設置間隔のイメージ



※急カーブとは、曲線半径が160m未満の場合、車線幅員の拡幅が必要とする規定に準拠し、 $R \leq 160$ と定義した【道路構造令】

▼設置箇所数

ルート番号	試行ルート名	交差点	急カーブ
1	きた北海道ルート	3	11
2	石狩川流域圏ルート	5	0
3	阿寒・摩周・釧路湿原ルート	5	14
4	トカプチ400	2	4
5	富良野・占冠ルート	225	
合計		15	29

※富良野・占冠ルートは、単路部2km毎(国道以外は1km毎)に、地域独自の路面標示を設置。(合計には含めていない)

▼路側帯幅による路面表示設置パターン分類

	パターン① $W \leq 0.75\text{m}$	パターン② $0.75\text{m} < W \leq 1.50\text{m}$	パターン③ $W > 1.50\text{m}$
<交差点>	1箇所	8箇所	6箇所
<急カーブ区間> $R \leq 160$	8箇所	21箇所	—
合計	9箇所	29箇所	6箇所

※パターン①②は、車線内に矢羽根を表示するため、夜間視認性向上策を図り高輝度タイプの白線を縁に設置する。
※路側帯へ路面表示を行う場合(パターン②③)は、歩行者優先を周知する啓発看板を設置する。

【パターン①】



【パターン②】



【パターン③】

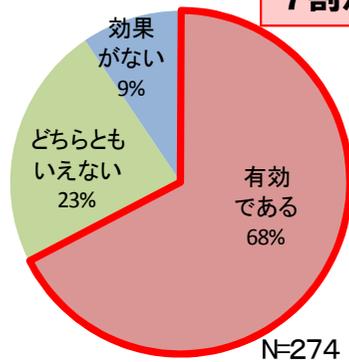


利用者のアンケート調査結果 ②路面表示(矢羽根)

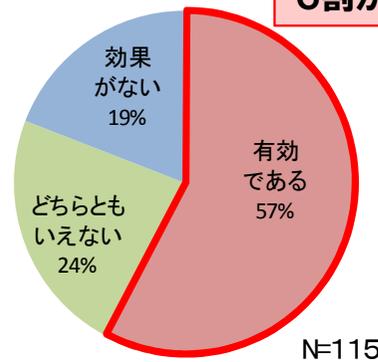
- 路面表示による安全性は、サイクリストのみならずドライバーも含め、交差点・急カーブともに一定の割合で有効と評価。
- その他の意見では、トンネル区間での安全対策として設置を望む意見がある。

(設問2-9) 交差点部の路面表示(矢羽根)はサイクリングルートの安全性向上に有効であると思いますか？

▼サイクリスト



▼ドライバー



▼その他の評価

アンケートの自由回答意見より

■ドライバー

- ・逆走(危険な走り方)を防ぐ点でも有効。ドライバーから見ても安全。
- ・矢羽根の意味を知らなかったが、意味が周知されれば安全性は確保できると思う。

■サイクリスト

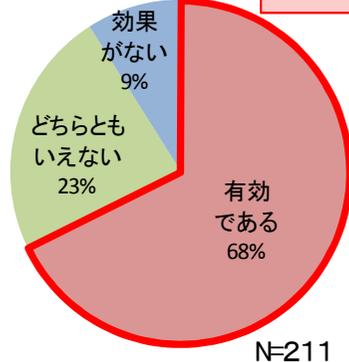
- ・試行で表示した矢羽根は、いずれも有効。どのパターンでもよいので、ルート上に多く設置してほしい。
- ・矢羽根があると、ドライバーの人に、自転車が通るルートであると認識してもらえるので、サイクリストが走りやすい。
- ・トンネル内が危険なため、路面表示を設置してほしい。
- ・ルートの終点から起点方向への表示も欲しい。

■歩行者

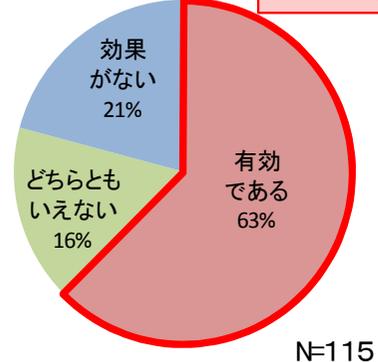
- ・路面表示(矢羽根)の意味を知らないドライバーが多いため、周知するためのキャンペーンなどを実施した方がいい。

(設問2-10) 急カーブ手前の路面表示(矢羽根)はサイクリングルートの安全性向上に有効であると思いますか？

▼サイクリスト



▼ドライバー



平成30年度の試行の方向性

自転車走行環境の改善に向けて

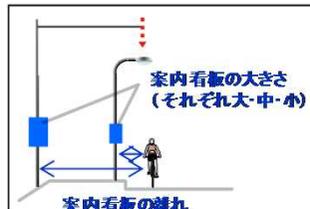
	案内看板シール	路面表示(矢羽根)
H29年度の試行から得られた評価	<p>(道路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○案内看板シールの全体的な数(交差点直進、単路部を含む)が不十分。 ○案内看板シールが小さいことにより、案内としてわかりにくい。 ○直線部への案内及びモデルルート of 終点から起点方向への案内を望む意見。 <p>(河川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現時点で否定的意見は無い(ただし設置後期間が短い)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○路面表示による安全性は、サイクリストのみならずドライバーも含め、交差点・急カーブともに一定の割合で有効と評価。 ○トンネル区間での安全対策として設置を望む意見。 ○終点から起点方向への表示を望む意見。
H30年度の試行の方向性		
	<p>(道路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○終点から起点方向及び単路部(交差点から5km間隔を目安)へ追加設置 ○既存柱がない場合は、「案内用の路面表示」による案内を検討。 ○適切な案内表示の大きさ、デザイン・色、設置位置、高さ等について、サイクリストの意見集約が必要と判断し、案内看板の基準確立に向けた視認性の実走調査を実施(H30年度夏頃を予定) <p>(河川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ H29年度と同様の試行を行いサイクリストからの意見を引き続き聴取。 	<ul style="list-style-type: none"> ○終点から起点方向、及びトンネル入口等への追加設置 <div style="text-align: center;"> <p>「トンネル入口部」の路面表示(イメージ)</p> </div>



案内看板シールの追加設置



案内用の路面表示例
(しまなみ海道)



視認性調査のイメージ

平成30年度の試行の方向性

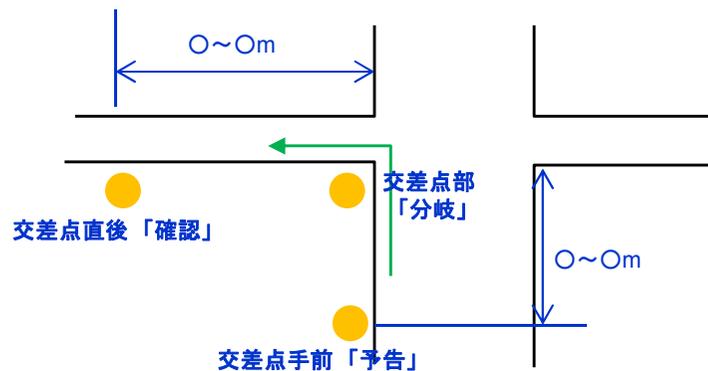
【案内看板の基準確立に向けた視認性の実走調査】

○複数のモニターサイクリストおよびサイクリングガイドによる実走調査を行い、案内看板や路面表示の大きさ、デザイン・色、設置位置、高さ等について総合的な評価を実施。

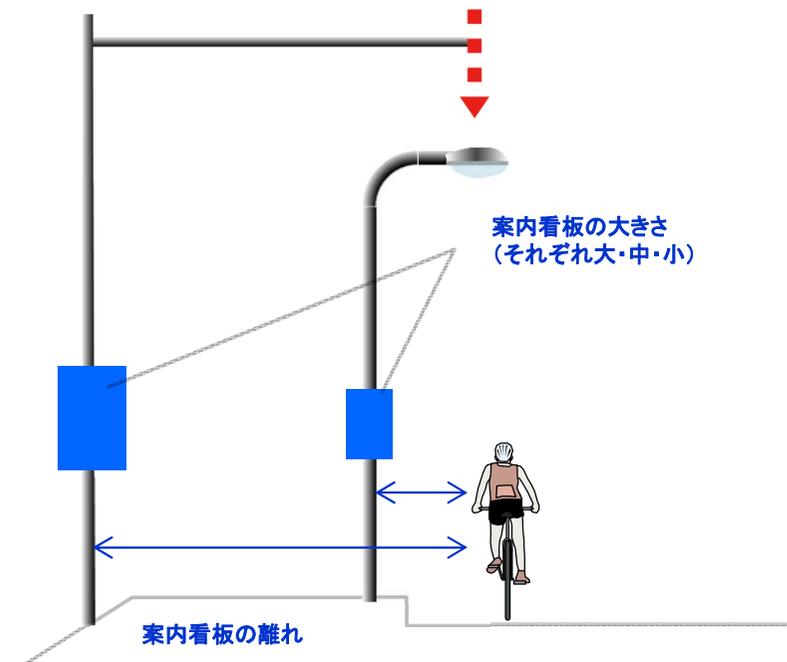
■調査項目（案）

- ・交差点部：予告・分岐・確認看板の設置位置や大きさを検証、路面表示の大きさ・位置等の検証（モニター走行調査）
- ・単路部：離隔（横断方向の位置）の違いによる適切な大きさの検証（モニター走行調査）
- ・その他：表示内容（デザイン・色彩・高さ等）や総合的な評価について意見収集を実施

▼交差点部での調査項目（イメージ）



▼単路部での調査項目（イメージ）



※具体的な検証手法は今後検討 7